

開会挨拶

司会 徳永 祥子（立命館大学衣笠総合研究機構客員准教授）

司会 本日、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。2019年度立命館大学人間科学研究所年次総会を始めさせていただきます。開会にあたりまして人間科学研究所所長の松田亮三よりご挨拶申し上げます。

開会挨拶

松田 亮三（立命館大学人間科学研究所所長 / 産業社会学部教授）

皆さんこんにちは。本日は立命館大学人間科学研究所年次総会の方にご参集いただきありがとうございます。シンポジウムに先立ち簡単にご挨拶させていただきます。

人間科学研究所は人間の身体的・精神的諸機能に関わる諸問題、発達や人格形成に関わる諸問題、社会福祉・教育・応用心理などの臨床的諸実践、並びに対人援助に関わる諸問題、さらには生命・倫理・原理・人権などの人間と社会に関わる諸問題についての総合的研究、という非常に幅広いテーマの研究に取り組んでいる学際的な研究所です。いつもこの説明をすると息が切れてちょっと続かないのですけれども。

現在重点的に取り組んでいる領域としましては、まず法と対人援助に関する研究があります。これには修復的な手法、冤罪救済、司法面接の支援などの研究が含まれます。

次に、母親と子どもの社会的関係性を縦断的に観察していく、いばらきコホート、複線径路等至性アプローチという質的な研究の手法を用いたキャリア形成の検討などを行っていく、対人援助についての学融的研究という領域を設定しています。これ以外にも男性介護者の支援、電子書籍普及と読書アクセシビリティ、インクルーシブな医療のサービスのあり方、自閉症スペクトラム障害の基礎的研究と領域プログラム開発、臨床行動分析、トラウマとレジリエンスの検討、など本当にさまざまな研究課題に取り組んでおります。

なお、研究所の拠点施設は現在京都の衣笠キャンパスにあります。大阪いばらきキャンパスの方でも研究活動を進めており、マルチキャンパスな研究活動を進めております。

さて研究所の紹介では、恒例としてポスターセッションとともに中心となる学術企画を設けております。それが今から行われます子どもの社会的養育に関する公開シンポジウムです。本シンポジウムはあとで登壇される中村正先生がリードされている社会的養育プロジェクト、そして同プロジェクトが実施しているフォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座が母体となっております。この講座は里親支援のスペシャリスト養成を目指すもので、日本財団の助成を受けて行っているものです。里親支援といった社会が求める新しい専門性を備える人材を養成していくことは、これからの高等教育機関にとって重要な役割の1つであり、今回の講座には研究所としても大いに期待しております。この取り組みを進める上でご協力いただいている日本財団様に改めて感謝申し上げます。

今回のシンポジウムの課題は、日本社会が直面しているさまざまな主題の中でも最も重要なものの1つである家族に関するものです。社会的養育は長い議論と制度のある分野ですが、近年より多くの人々が関心をもち議論する課題となってきました。その中で複雑な家族関係が日本よりはるかに一般化しているフランスの情報を伺い、日本の取り組みを考える今回のシンポジウムで何が発せられるのか、私としても大いに関心を持っています。

最後になりますが、基調報告をしていただく高橋さん、安發さん、講座を企画・実施していただいている中村先生、徳永先生に改めて御礼申し上げます。そして本日のシンポジウムの議論が参加者の皆さまに有意義なものとなることを願っております。以上で私のご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。